

予防接種スケジュール

生まれ		3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	16歳	
ワクチン名	接種時期													
日本脳炎 定期	標準的には3歳から接種可能 ①-②は6日以上あける ②-③はおおむね1年あける (7歳半まで公費) ④は9歳以上13歳未満の間に接種(小学4年生で)	1回目	2回目	3回目	①-② 6日以上あける ②-③ 1年あける			4回目	④ 9歳以上13歳未満					
MRワクチン(麻しん風しん) 定期	年長児の1年間 (4/1~3/31)の間に接種				2回目 年長児の1年間									
おたふくかぜ 任意	就学前までに罹患していなければ2回目接種				2回目									
二種混合(破傷風・ジフテリア) 定期	11歳~12歳の間に接種 (小学6年生で)									1回目	11~12歳の間			
子宮頸がん(ヒトパピローマ) 定期	小学6年生~高校1年生相当の女性 (標準的には小学6年生~) ①-②は1ヵ月以上あける ①-③は5ヵ月以上かつ、 ②-③を2ヵ月半以上あける										①-② 1ヵ月以上あける	1回目	2回目	3回目
シルガード (9価) 定期	小学6年生~高校1年生相当の女性 (標準的には小学6年生~) 年齢によって変更										15歳未満2回接種 ①-② 半年あけて	1回目	2回目	3回目
											15歳以上3回接種 ①-② 1ヶ月以上あけて ②-③ 3ヶ月以上あける	1回目	2回目	3回目

定期 ……公費で接種、但し各ワクチンに公費対象年齢があるので注意

任意 ……自費で接種(料金がかかります)

接種可能期間が重なっていれば同時接種可能

① ② ③ ……接種回数

①-②-③ ……表示期間は接種を空けてください。

※接種期間内でワクチン接種ができなかった場合や不明点などがある場合はスタッフまでお尋ねください。



小児科/アレルギー科/心療内科/子育て支援

パームこどもクリニック

〒520-3027 滋賀県栗東市野尻440

TEL.077-551-2110(代表)

ケータイから予約もできます。



ワクチンで予防できる子どもの病気

BCG

【結核】

せきや発熱が続く病気ですが、子どもの場合、せきなどの症状はあまりみられません。赤ちゃんの場合は、粟粒結核や髄膜炎など重症になりやすく、後遺症が残ったり、死亡することもあります。

4種混合・5種混合

【ジフテリア】

のどについたジフテリア菌が増えて、炎症を起こす病気です。38度以上の熱と、犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし死亡することもあります。

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音(ウープ)をとまなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。肺炎、脳炎を併発することがあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなったりします。

【ポリオ】

小児麻痺とも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は熱が下がった後に手足の麻痺があらわれます。

【Hib(インフルエンザ菌b型)感染症】

インフルエンザ菌b型という細菌(※インフルエンザウイルスとはまったく別のもの)による病気です。細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎などを起こします。5才までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しく、重症化します。死亡や重い後遺症の残る例も多くあります。(5種混合に含まれる)

麻疹風しん混合

【麻疹 (はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、上がります。特有の赤い発疹が顔から全身へ広がります。かかると肺炎や気管支炎、脳炎を合併することもあり、死亡する例もあります。

【風疹 (三日ばしか)】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの3症状が特徴の病気です。熱がでないことも多くかぜに似た症状で、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。

日本脳炎

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運んできて感染し、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても大多数は無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。治療が難しく、死亡や重い後遺症の危険性があります。

ヒトパピローマ

【子宮頸がん】

子宮頸がんの90%以上はヒトパピローマウイルス(HPV)と呼ばれるウイルスが関わっています。HPVは一般に性行為を介して感染することが知られています。このワクチンは副作用のことが話題になりましたが、現在は因果関係は否定されています。子宮頸がんの予防効果も高く思春期早期の小学校6年生から高校1年生までの時期に受ける必要があります。

※当院ではカーダシル、R5.4/1～シルガード(9価)を取り扱っています。

小児の肺炎球菌

【肺炎球菌感染症】

肺炎球菌による病気です。脳を包む髄膜炎で炎症を起こす細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、死亡や重い後遺症の残る例もあります。菌血症は髄膜炎の前段階となることがあります。肺炎や中耳炎は治りにくかったり、繰り返したりします。

ロタ

【ロタウイルス胃腸炎】

ロタウイルス胃腸炎は激しい下痢やおう吐によって脱水を起こしやすく、けいれんがみられることもあるため、もっとも重症化しやすい乳幼児の胃腸炎と言われています。また、感染力が強く、衛生状態に気を付けるだけでは防ぎきることが難しい感染症です。

B型肝炎

【B型肝炎ウイルス】

B型肝炎ウイルスが体に入ると肝炎をおこし、長く肝臓にすみついて(慢性化・キャリア化)、肝硬変や肝臓がんをおこします。非常に感染力が強いウイルスで、母親からの分娩時の感染(母子感染・垂直感染)や、原因が明らかな水平感染だけではなく、特に子どもの場合は、感染源が原因不明のことも多いとされます。

水痘

【水痘(みずぼうそう)】

強いかゆみのある赤い水疱をともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

おたふくかぜ

【おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)】

発熱とともに片方または両方の唾液腺(※耳の下からあごにかけての部分)、特に耳下腺ははれる病気です。ふつう1～2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。治らない難聴(片側)になったりします。

インフルエンザ

【インフルエンザ】

悪寒や発熱、頭痛、関節痛などの全身症状がみられる病気です。赤ちゃんがかかると気管支炎や中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと死亡や後遺症の危険性が高くなります。